

なぜ、私が今更ながらここに立ったか。それは同僚議員の熱心な後押しがあったから重い腰をあげました。又、議長立候補者は「当然、所信表明演説をするべきだ」の発言をした覚えがあるからでもありましょう。

更には、海津市議会が市民の皆様から高い信頼を受けているとは思っていないからでもあります。「まちが悪くなったのは議会が悪いからだ」の意見もあるのです。

昨年、市民の方々と語る会をひまわりで開催しましたが、市民の方の出席は8人でした。内7人は私がいつも話をしている人ばかりでした。8人の出席とは何の現れでしょうか。議会に対する期待度がいかに薄いと思いませんか。

日々の生活の中で、議員1人1人が皆さんの声に耳を傾け、目を凝らしまちづくりの思いを語る場が少ないのではないのか、と思われまます。

アンケートを取る、語る会を開く、結構であります但其の前に生活の中で一議員としてどのような活動があるのでしょうか。

以前海津町のある方が一般質問の内容について「あれは議員のアリバイ工作をしているだけなのか」と又、ある南濃の女性の方は一般質問に対し「今、海津市に対し何を言わなあかん、何をやらなあかんわかつとの」とサロンの場で言われました。議員に対するご意見の意味をおわかりになるのでしょうか。もっと大所高所からモノを言えと言うことです。

昔、一部の議員の方へこんな言い方もありました。「井戸、堀議員」と。それは世の為、人の為に私財を投げ打って尽力された議員への表現の言葉でした。終わったら井戸と堀しか残らなかった。勿論昔の話であり、今はしてはいけないことではありますが、精心は同じ方向を向いていたいものです。世の為、人の為です。

7月7日文教福祉委員会で不登校の子が学ぶ西濃学園を視察しましたが、その時に園長の加納先生は、北浦理事長は家もなくし全財産を投げ打って戸惑う子ども達の為に尽力されていると話されました。そのショックたるや忘れません。今もそのような方がおいでになるのかと。

議員の資質向上、そして議会の信頼回復は喫緊の課題。数年前の研修でおいでいただいた龍谷大学の土山君江先生や、2月に三重県から講師に来ていただいた高沖先生からも助言いただいた「いい意見は、委員会の意見として、又議会全体の意見として出し行政を動かそう」と話されました。そして良い結果が出れば、市民皆様に報告しましょう。そう言った事が議会の信頼に繋がるものと考えます。

二元代表制の意味を今一度確認行動し議会の信頼向上に励もうではありませんか。